大銀杏

第50号
令和5(2023)年
3月17日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
中田大翔 村元颯泰
片桐伊織 三田航太朗
井上晴道 井上晃喜
樫山翔太 荒嶋航成
高橋 新 水野 真
野田 諒 細貝 陽
田中湧大 植竹隼也
(中学校)
経澤悠希 稲生海凪
川村一惺 池田晃太郎
高橋航之介 湖山武司
題字 東山右徹先生

全国いじめ問題子供サミットへ参加

1月21日文部科学省講堂にて、令和4年度全国いじめ問題子供サミットが行われた（本校中3生3名、中1生1名参加、都道府県、政令指定都市代表60校、小21名、中103名）。全国の小中学生が集まりいじめをどう防ぐか、もし起こってしまったらどう対処するか等を話し合った。サミットでは午前に全国小中のいじめ防止取組がポスター形式で発表された（2面へ全国の取組）。午後には、グループに分かれいじめ防止の協議が行われた。また午後の始めには、お笑い芸人のライセンス藤原一裕さんが自身のいじめを受けた学生時代について語った。一日参加して色々と考えたが一番印象深いのは藤原さんのお話であった。藤原さんは中学1年生の時にいじめにあった。今になってもまだ記憶に残っていると話された。自分がなぜターゲットになったのかはいまだにわからない。ある日からいじめっ子がクラスに来て藤原さんは殴られた。でももう1人いじめられている子がいて、その子と一緒に帰った際に今度どちらかがいじめられたら、お互いで守り合おうと約束した。次いじめられたのは藤原さん、その時にもう1人の子を見たら笑っていた。その当時は大変悔しい思いをしたと語られたが、大人になって考えるとその子は怖くて動けなかったのだと思うようになった。これらの経験を体験した藤原さんからの言葉は「逃げてください」それだけだそうです。いじめに遭ったら即逃げていい無理をして学校に行くことはないと語った。一人の中学生として、いじめについて考える一日でした。藤原一裕さんのスピーチ内容を次にまとめましたので、お読みください。

【稲生】

逃げてもいいけど負けたらあかん

（藤原一裕氏登壇 写真(左)）

180センチあります。ひょろひょろではありません。空手のインターハイ全国16位になりました。そんな僕でも中学1年の時にいじめに遭いました。正直今になっても胸にグッとくるものがあります。ですが、今回皆様にこの気持ちをお伝えしたいと思います。楽しい話でもないかもしれませんが聞いていただけたらいいと思います。僕の父親はいわゆる転勤族で、1年か2年でいろんな地域に引っ越すもので、生まれたのは兵庫県小学生は奈良それから1年で、神奈川県川崎市にそれから3年後に新潟県長岡市にそれからしばらくしてまた奈良県に戻るですので小学校には3つ通い中学は2つ通いました。唯一高校には卒業までいました。僕が中1を迎えたのは新潟県長岡市です。正直今振り返るとどうして僕が標的だったのかなぜ僕に的が絞られたのか理由は全くわかりません。ある日突然でした。田舎の学校だったので、ヤンキーがいるような学校で中1の同級生にも何人かいました。違うクラスでした、ですが授業の合間合間の休み時間どこかのタイミングでうちのクラスに来て僕を見つけてお腹を殴ったり背中を急に蹴ってきたりしてきました。その時は僕は体が小さかった中1で、148センチしかありませんでした。前の方から数えた方が早い大きさでした。クラスで「ワー」という感じではなかった。どちらかといえば静かな方でした。なのに僕が目をつけられてしまった。もう一人僕以外にA君がいてその子も僕と同じようにたまに標的になるんです。いつもどっちかなんです。どっちかが休み時間に見つかって教室のはじのどこかでやられる。今考えると意味分かんないし何なんだ。クラスで見てる人もいっぱいいます。でも誰も助けてくれない。だから辛くてA君と帰った時に次にどちらかがやられたらお互いに助け合おうと決めました。でその次に標的になったのは僕でした。A君をその時見ました。A君はその時笑ってたんですね。大人になった今A君の気持ちを考えると、怖っかったんだと思います。そこで僕を助けると自分がやられてしまう。僕が逆だったら僕も笑っていたかもしれない。だから今A君を恨んでいるかと言われたら、それは違うと思います。

ですが先生に助けを求められたかと言われたら求められなかった。なぜなら報復が怖いから。しかもヤンキーには先輩もいる時々先輩のとこにも連れてかれて自転車をこがされた後ろに先輩が乗って道を間違えると後ろから殴られた。そんな人たちに先生に言いつけたら何されるかわからない。じゃ親にも言ったか親にも言わなかったうちの家族は物凄く仲が良かった親とは今も仲がいい。

←2面へ続く

ﾎﾟｽﾀｰ発表、山本左近文部科学大臣政務官の質問に答える

全国各地の中学生とグループ協議

グループ協議を全体へ その司会を務めた

『学者肌『哲人校長』東洋的なリーダーシップに感銘受けた』
佐野健校長先生との思い出

池田 和樹（二〇二一年卒業）

私は二〇一七年1月に中学の生徒会執行役員に就任し、その後二〇二〇年9月に退任するまで中高通算3期生徒会の執行役員を勤めたが、そのほとんどの期間、校長として私たちと向き合ってくださったのが佐野健校長先生だった。私から見た佐野先生は、まさに「哲人」そのものであった。私が、会務の件で校長室を訪れる機会は多々あったが、先生が不在のことは殆どなく、校長室で執務をなされるか、読書をされていた。その姿を見て、佐野先生の含蓄に富んだお話の数々は、このような日頃の読書によって培われたものであることに気づいた。また、佐野先生の校長としてリーダーシップのあり方にも、これら読書で得た思想が少なからず影響しているのではないかと感じる場面があった。我々はリーダーシップと聞くと、リーダー自ら陣頭に立ち采配を振るう姿や、果断即決で判断を下す姿を連想する。しかし、古来東洋で重んじられてきたリーダーシップは、これと異なる。漢文の例文では軽挙妄動に走る君主を賢臣が諫める姿が度々描かれるが、東洋の帝王学においてリーダーとは、積極的に議論の主導権を握るのではなく議論の推移を丁寧に見守り必要な時に判断を下す存在として位置付けられていた。それらを踏まえてか、佐野先生は「周囲の熟議を待つ」という姿勢を校長として貫徹されており、私は生徒会役員として相対する中で、その一貫した姿勢に感銘を受けた。

その中でも、もっとも佐野先生に「哲人」を感じたのは、卒業後の夏休みに本校を訪れた時のことである。その時、佐野先生は本校の校訓「勇猛精進」「質実剛健」の意義について解説して下さったのだが、特に衝撃的だったのは「質実剛健」が校訓となった経緯であった。先生曰く、「質実剛健」の直接の由来は、明治天皇が最晩年に発した戊辰詔書であり、時宗の教義と直接関係があるわけではない。しかし、文部省から許認可を得ようとする中で、時代の流行を取り入れざるを得なかったのではないかとの見解を示した。一般論として私学における校訓は、積極的に評価することはあっても、その由来の政治的経緯に踏み込むことは少ない。私自身、祝辞などで校訓を積極的に評価した決まり文句を使ったことが何度もある。しかし、学者肌の佐野先生は、こうした歴史的経緯を踏まえた上で、その言葉がその後どのような意味づけをされたかも含めて学ぶことの必要性を強調していた。自己の知識を自分の頭の中だけに溜め込まず、自己の行動規範としてアウトプットすることは簡単なことではない。しかし、佐野先生は、読書や経験によって得られた知識が新しい知識を自分の中に呼び込み、それが行動に結びつく過程をもはや「楽しい」こととして捉えている。先生の域に達するには相応の年月を要するであろうが、先生の教えを受けたものの一人として、このような素敵な「知のアウトプット」ができるよう精進したい。

来迎寺 教養講座 地域取材
龍齋春水師 講談『中村久子伝』

令和4年11月23日に鎌倉西御門 来迎寺にて講談師、一龍齋春水さんによる講談会が行われました。春水さんは、講談師として有名ですが麻上洋子という名前で声優活動もされており、宇宙戦艦ヤマト(1974)で森雪や、シティーハンター(1987)で野上冴子の声などを担当されてきました。そして現在は声優の経験を生かし講談師としても活躍されています。

来迎寺の公演では、「手足なき人生 四肢無き偉人中村久子伝」を講談されました。この演目は、二歳の時凍傷で両手足を失った中村久子さんが両手足のないハンデを乗り越え逆境をはねのけていくドキュメンタリーです。春水さんの講談から中村久子さんの生涯の一時期を知ることができました。この他、「鉢の木」の演目や声優の話しもお聞きできました。鎌倉西御門来迎寺は読者の皆様もご存知かと思いますが高校教頭林学先生がご住職のお寺です。とても静かで綺麗なお寺でした。

【川村】

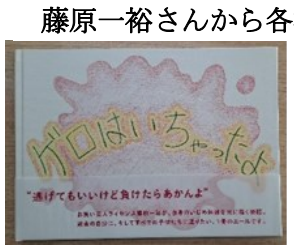
中村久子について

インターネットで調べると中村久子女史顕彰会というHPがあり「人生に絶望なし如何なる人生にも決して絶望はない」という中村久子の言葉が紹介されている。このHPには「中村久子女史は、明治30年岐阜県高山市に畳職人の父、釜鳴栄太郎さんと、母あやさんの長女として生まれました。両親の間には長い間子供がありませんでしたので、久子女史誕生の両親の喜びようはたとえようもありませんでした。」と生涯の説明が始められている。紙幅により書けませんが知ることの大切さを感じました。

あなたの子ども学校でいじめられてますよという事実を伝えたくなかった。親に心配をかけたくなかった。自分1人頑張ればいいと思った。ですが今自分にも娘がいて、もしこれから先にいじめられたら自分の時は言わなかったが必ずその事実を言って欲しい。僕がいじめに耐えられたのは奈良に戻るというゴールがあった。だから耐えられた。奈良に戻って僕はお笑いに出会い、今の相方に出会いここで話すことができています。もし奈良に戻ってなかったら今ここで話してもいないと思います。そう思うとゾッとします。今ここで話していて一番大事だと思うのは、いじめにあったら逃げてほしい。先生たちの前で言うのはあれですが学校に行かなくてもいいと思います。勉強できる方法は今の世の中たくさんあります。わざわざ学校に行って勉強する必要はありません。逃げてください。まず避難してください。それが一番大事だと思います。だけどその逃げた先で勉強もしない外の世界に目を向けないそれはいじめに屈指たことになります。私が出した本にも書いてあります。

逃げてもいいけど負けたらあかん。僕は逃げてほしいそれで逃げた先で新しいものと出会って学校だけが全てじゃないと知ってほしい。みなさんが真剣にいじめに熱量を持ってやってくださっていて願わくは今中学生でありたかった。あの時の自分に見せてやりたかった。自分がいじめられてる際に話しかけてくれたらすごく嬉しかった。話してくれることはとても勇気を出してやってくれてとてもありがたかった。話しかけてもらえるだけでその日一日が楽しかった。学校にいる時にみんなと一緒じゃなきゃいけないといけないこともありますが、でも個性ってすごく大事なんだと理解してほしい。

藤原一裕さんから各校へ贈られた絵本



令和3年度全国いじめ問題子供サミットスピーチ

大銀杏47号で掲載できなかった前年度全国いじめ問題子供サミットのゲストスピーチをお伝えします。ゲストはタレントの景井ひなさん(写真㊦)。ネット社会でのいじめ問題について語ってくれてメッセージの書き込みなど身近なお話でした。始めの挨拶と午後のスピーチは次の通りです。

【川村】

皆さんこんにちは、はじめまして、景井ひなと申します。本日は、直接お会いできず、すごく残念ですが、オンラインということもあり画面を通して一人一人としっかりお話しができる機会になったんじゃないかと思います。本日はどうぞ宜しくお願いします。

この2年ほどでコロナ禍で、実際、私のようなSNSでメインに活動している身にとっては、より多くの人に見てもらえる機会になりました。そのことによってより強く応援してくださる方が増えていることも、逆に批判的なコメントを残すような方もいました。昨今問題になっている誹謗中傷によって私自身も凄く傷つくことがあり、こんなに辛いならSNS自体止めてしまおうと思った事もあります。学生時代に受けていた、いじめは、まだ相手が見えていたので、明確にこの人が憎いと憎めるものがありその人の怖さとかも見えたりしていたのですがSNSは顔も名前もわからない人から酷い言葉を投げられると、「本当にこの怒りを何処にぶつけていいのか」とやり場の無いものが一気に押し寄せてきてどうしようもない気持ちになります。本当に辛くてどうしようもないとき、ふと逆の立場だったらと考えたんです。私はKPOPが昔から大好きで応援しているガールズグループがあるんです。そして私が凄く応援していて、応援するコメントを送っているのにその人が批判的なコメントばかりを見ていて落ち込んでいたら私はファンとして、悲しいなと思いました。だから批判的なコメントばかり気にしていたら、今応援してくれている方々が自分のコメントを読んでくれないと悲しむんじゃないかと思いました。それから、傷つけられるような言葉を見た時はそれ以上に応援してくれている方々のコメントを読んで、元気を貰うようにして、乗り越えて来ました。また、事務所の方にもきちんと相談をするようにして、しっかりと然るべき対応をとってもらうことで、安心して生活ができるような環境をつくっていました。私がコロナ禍で気が付いたことは、批判的なコメントを向ける人がいることに、それ以上にたくさんの好意的な人がいるということ、そして誰かに相談をしたら世の中にはそれに対応してくれる機会がちゃんとあるんだなということです。皆さんもきっと今現在既にSNSを使っている方もこれから使われる方もいると思うので少しでも参考になったらいいなと思います。以上私が経験した話でした。

全国各地 いじめ防止の取り組み

都道府県 指定都市	学校名	いじめ防止の取り組み
北海道	登別市立鷲別中学校	ワークショップ、講演会。標語ほか。
青森県	南部町立名川中学校	「名中の絆宣言」、声かけ運動ほか。
宮城県	松島町立松島中学校	いじめ防止CM、いじめについて考える授業ほか
山形県	東根市立第一中学校	「ｽﾏｲﾙｻﾐｯﾄ」「ﾏｲﾏﾆ」：一人ひとりの頑張り認める他
福島県	いわき市立平第二中学校	「あじさい運動」「俳句・動画コンクール」ほか
福島県	会津若松市立北会津中学校	「いじめ０宣言」「MVPの樹」級友のよさ発見、他
福島県	福島大学附属中学校	「社長のおごり自販機オマージュ運動」ほか
茨城県	神栖市立神栖第三中学校	「いじめSOSフォーラム」の開催、ほか
群馬県	板倉町立板倉中学校	いじめ防止フォーラム、あいさつ運動ほか
埼玉県	三郷市立幸房小学校	「いじめ０えがお１００、KEEP SMILING」ほか
千葉県	成田市立遠山中学校	イエローリボン(いじめをしない)運動ほか
千葉県	松戸市立第四中学校	道徳劇、自己中心を知るチェックリストほか
神奈川県	私立藤嶺学園藤沢中学校	心と命を感じるプロジェクト （講演会、「いじめ？」「防止標語」ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ）
山梨県	道志村立道志中学校	「自助･共助･公助：命を守る合言葉」ほか
岐阜県	羽島郡岐南町立岐南中学校	人権週間、よかったカードほか
三重県	松阪市立鎌田中学校	KHRの歩み 利用者アンケートほか
京都府	同志社国際学院初等部	Bullying アンケートほか
静岡県	京都教育大学附属桃山中学校	生徒会人権宣言、スマイルデー、人権劇ほか
兵庫県	太子町立太子西中学校	「いじめ」の対義語ワークショップほか
大阪府	和泉市立いぶき野小学校	いじめ防止の取組
島根県	浜田市立旭中学校	「絆づくり」活動、異学年交流ほか
岡山県	玉野市立山田中学校	Stop! いじめ防止月間「知る･考える･止める」他
広島県	尾道市立高西中学校	いじめSTOP集会、平和集会ほか
徳島県	徳島市千松小学校	いじめ防止子ども委員会の取組「笑顔の木」他
香川県	坂出市立坂出中学校 高松市立木太中学校 高松市立新番丁小学校	いじめ防止劇、シンポジウム、サミットほか
高知県	中土佐町立久礼小学校	いじめ防止サミット、いじめ防止宣言ほか
福岡県	折尾愛真中学校	「いじめ防止教室：不安の原因を知る」ほか
佐賀県	佐賀大学教育学部附属中学校	いじめゼロ宣言、生徒会活動ほか
佐賀県	唐津市立相知中学校	生徒人権宣言文、目安箱、話し合いほか
熊本県	多良木町立多良木中学校	「『いじめはなくならない』を考える」、集会他
大分県	宇佐市立西部中学校	「思いやりの日(思いやりﾊｰﾄ)を開始」ほか
宮崎県	宮崎市立大淀中学校	いじめ防止標語、思いやりの花、挨拶運動ほか
鹿児島県	垂水市立垂水中央中学校	「生徒会策定マナー」いじめ防止取組ほか
沖縄県	豊見城市立長嶺中学校	いじめ撲滅行動宣言、ピンクシャツデーほか
札幌市	札幌市立北栄中学校	さっぽろっ子宣言(案)の作成、幸せ返し憲法他
さいたま市	さいたま市立大東小学校	子ども会議、いじめ０ムービー作成ほか
川崎市	川崎市立はるひ野中学校	ｼﾄﾗｽﾘﾎﾞﾝﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、いじめ防止標語ほか
横浜市	横浜市立小田中学校	多様な人がつながる共有体験、傘ﾘｻｲｸﾙ活動他
相模原市	相模原市立鵜野森中学校	挨拶運動、異学年交流ほか
浜松市	浜松市立八幡中学校	安全・安心を土台とした学校づくり、ｱﾝｹｰﾄ他
京都市	京都市立梅津小学校 京都市立朱雀中学校	中学校生徒会サミット+京キッズ会議、 挨拶運動、縦割り活動・学級討議ほか
大阪市	大阪市立井高野中学校	小中連携、ゆるキャラ制作ほか
神戸市	神戸市立小部中学校	全校生アンケート、いじめ撲滅宣言ほか
岡山市	岡山市立岡輝中学校	人権学習、いじめ防止５か条、協同学習ほか
広島市	広島市立吉島中学校	みんなでいじめゼロ宣言、言葉のマナーほか

「藤嶺藤沢新聞 大銀杏 第50号に寄す」

アフォ力

越田健介（平27卒業・99期）

だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

（『新約聖書』「マタイの福音書」６章34節）

さいきん、この言葉をよく思う。時宗総本山門下に青春を送る後進たちに些か不適当な気もするが、まあ深く案ずることもなかろう。古来の箴言のひとつと取り、個々の心に従ってひもとけばよい。ミッション系の某校に奉職し、日々早朝の御言葉に耳を傾けている中で、『聖書』の言葉に時折、胸の裡が揺すられることがある。ともすると、私たちは些細な不安に駆られて、そのことが明日一日に僅かの影を落とすのだろうか、とわけもわからずいっそうの不安に苛まれる。殊に、こういう職につくと、きょう講義で述べたある一言でさえも、彼／女たちの知識を、人格を、さらには未来を変に左右するのではなかろうかと、一日を終えてベッドにもぐったとき、俄にフラッシュバックしてくることも、数えきれずある。否、そのような日々のくり返しだ。後悔。後悔の日々にあり、成長せずにある自分に時に嫌気も差し、あのころに戻りたいとかっこ悪くも思うときがある。

その「あのころ」というのは、無論、藤嶺での日々である。新聞を書き、その一方で不安も衒いも持たず、心底おちゃらけていられた日々。思い返せば、なんて尊かったのだろう！　だから、みんなも目一杯にたのしんで！　などとまったく思わぬが、ただ私にとっては鮮明な思い出である。ほんとうに、鮮明な。どうして、新聞を書いているのに、ガラナジュースをさばいているのだろう。どうして、新聞を書いているのに、東進ハイスクールの真似事をしているのだろう。大人になって思い返すと、いろいろ疑問も湧くが、それでよかったのである。「あすのことはあすが心配します」。きょうを生きていればよい。「労苦はその日その日に、十分あります」。もちろん、そういう「労苦」と真摯に向き合いつつも、ムリになってくれば笑えばよい。そんな生き方を新聞部で得た気がする。そして、そんな生き方をハラケン先生は一言、「ＡＦＯ（アフォ）力」と呼んでいた。アフォ力――。私の日々の指針だ。「だから、あすのための心配は無用です」。くよくよしてばかりいるが、明日も早いとベッドの中で割りきる。仮に無くとも、一日うまくいった出来事を思う。そして、眠る。それで良かったのだ、と思って眠る。朝、私の一日がまた始まる。

令和4年6月18日
東北大学大学院 文学研究科
日本学 専攻 日本文学専攻 分野
（博士 2年）